

震度ごとの被害 ~震度階級表~

震度とは「その場所で感じる揺れの大きさ」、マグニチュードとは「地震自体の規模のこと」。気象庁の震度計による観測に基づき、震度は下記のように、10階級に分類されます。

震度	主な被害想定
0	人は揺れを感じない。
1	屋内にいる人の一部が、わずかな揺れを感じる。
2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。
3	屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じ恐怖を覚える人も
4	かなりの恐怖感があり、眠っている人のほとんどが目覚めます。
5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる棚にある食器類が落ちることがある。
5強	物につかまらなると歩くことが難しい。固定していない家具が倒れることがある。
6弱	立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し倒れることがある。ドアが開かなくなる。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。耐震性の低い木造建物は、傾いたり倒れたりするものもある。
6強	はわないと動くことができない、飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動し倒れるものが多くなる。耐震性の低い木造建物は、傾いたり倒れたりするものが多くなる。大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山崩れが発生することがある。
7	揺れにほんろうされ、自分の意思では行動できない。ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。耐震性の高い建物でも傾いたり大きく破壊するものがある。大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山崩れが発生し地形が変化することもある。



気象庁震度関連解説表より抜粋